

ウルス号専用デザインのエアロ、只今製作中!



取材時はエアロパーツの原型となるマスター型製作の真最中。粘土のような素材を塗り込んで削って、を繰り返し目指すべきカタチに整えていく。荷台後部側面は車体への装着方法も考えながら、原型を作っていく。



荷台下部スペースを隠す「サイドパネル&リヤパネルキット」。はたらくクルマには収納はいつあっても困ることはない、ということでサイドパネルには小物入れも設置。急遽、製作することになったリヤパネルは左右二分割構成にすることで、車体幅問わずに装着が可能になる予定。(予価6万8000円)。



荷台の下にあるフレームが丸見えのエアロ未装着(Before写真)。アゲ仕様で車高を上げたことで余計に目立ってしまう部分を覆い隠し、全体的なフォルムを整える意味でもエアロの効果は大きい。



まるで帽子のような「ビッグブルースポイラー」により車体と荷台の一体感が生まれる。荷台側から見るとキャビン側面の曲線がそのまままで伸びていて、荷台ボックスもこの曲線に沿うようなシルエットで製作中。ルーフスポイラーは汎用品として商品化を予定。(予価7万8000円)。



ディトナ的

「はたらくクルマ」制作プロジェクト



本企画の軽トラはネジザウルスのイメージキャラ名からウルス号と命名。

ウルス号が目指すボディフォルムのポイントは「一体感」。車体と荷台スペースが一体となったフォルムを生み出すためにはギャップを埋めるためのエアロパーツが必要なのだ。

CG製作/ディーアンドディー www.dd-asia.jp Special Thanks /エンジニア www.engineer.jp
イラストレーティング 045-951-7805 s2-racing.net

現行キャリー用ボディキットが商品化決定!

今回紹介したエアロと別途製作中の荷台ボックスのコンプリートキットが商品化されることに。ウルス号の製作がきっかけになり、現行車ユーザーに向けた販売します。ただいま製作中のため、商品詳細や価格は決定し次第、誌面にて紹介。乞うご期待!



問/T-STYLE AUTO SALES
045-342-7757 www.t-style08.com



手作業でFRPを貼っていく昔ながらの製法で、エアロパーツを製作するアンチック。手間はかかるが、一体型で強度のあるエアロパーツを作る事にこだわる職人の工房。

有限会社アンチック
〒252-0823 神奈川県藤沢市菖蒲沢989-1 TEL 0466-49-1802

潰れた「皿ネジ」も外せます! ネジバズーカDBZ-55B

エンジニアの代表作「ネジザウルス」。なめてしまったネジも回せる超便利な工具ですが、唯一の難点は皿ネジが回せなかったこと。でも、そんな時には「ネジバズーカ」。ビットを差込むことでガッチリ噛み合っただけで、もう外せる特殊ドライバー。基本ビットに加え、さらなる進化系ビットも間もなく発売されるとのこと。これさえあれば、もう怖いものなど無いのです。



「1stビット」
軽症ネジは差し込んで回す

「2ndビット」&
「HEXビット」
重症のネジや六角ネジは軽く叩いて差し込む

詳しい使い方は
コチラの動画で
CHECK!!



なめてしまった、とはいえ多くは十字溝の端が残っている状態。そんな軽症ネジには1stビットをグッと差し込んで回すだけ。

ビットのお尻をハンマーで軽く叩いてネジに差し込む。あとはグリップを装着して回すだけ。HEXは穴の対辺2.5~5.0までの六角ネジに対応。

@nejisaurus f ウルスくん ENGINEER 株式会社エンジニア www.engineer.jp

大事な機材や荷物を積むことが前提だけにウルス号にも荷台のボックスは欠かせない。でも、ただボックスを載せただけではよくあるパネルパン。全体像としてのカッコ良さを追求するのなら、一体感あるフォルムを作るべき。そんなコンセプトを基に製作されたデザインCGが上。このデザインを再現するべく、荷台ボックスとともにエアロパーツも製作することに。

5月某日。アンチックの工房でエアロ製作真っ最中のウルス号。ルーフに載せられた帽子のような物体は「ビッグブルースポイラー」。空気抵抗を抑えるデフレクターとしては従来品に比べ大きく、斬新なデザイン。荷台のない現状では何だか浮いた存在に見えるけれど、完成時にはキャビンと荷台の段差を埋めてくれる、さりげなくも欠かせない存在になってくれる。

さらに荷台部分には「サイドパネル&リヤパネルキット」を製作中。車高を上げたことで見えてしまう車体下部のフレームやバッテリーボックスを隠してしまうというのが狙い。それでいて荷台のアオリ機能は潰さずに実用性を損なわないのもポイント。デザイン案では何も装着しない予定だったリア。でも、サイドパネルでせつかく隠した裏側が後ろから見えてしまうことが発覚。妥協を許さないアンチックの安保さんは「やっぱりリアも作るう!」と徐々にFRPの板をあてがいが、作業を始めるのでした。

「脱」箱が載ってる「感」。特注エアロで一体感を!